

# 門祖日隆聖人物語 第16回



## 550

## 東朝西隆

### 四帖抄の作成と送付

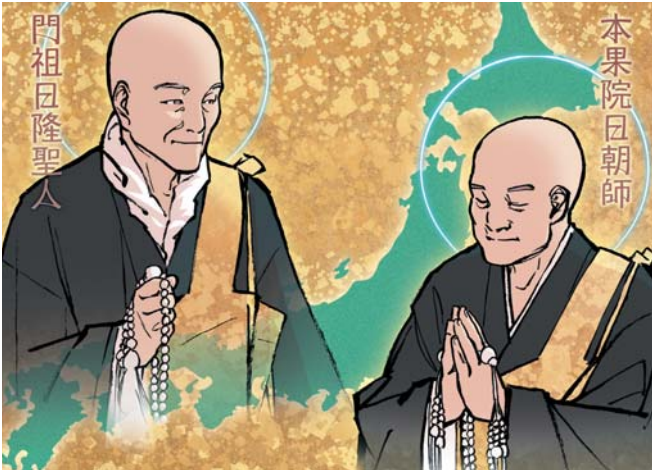
門祖聖人は、悩み苦しんでいる人々に御題目のご信心を勧め、幸せになって貰おうと、ご弘通ご奉公を第一にこれまで励まされてきたんだけど、もう一つの大切な使命を感じられたんだ。

お祖師さまのみ教えは、法華経本門八品上行所伝の御題目しか、末法の世の人々を救うことはできないというもの。しかし、そのみ教えを守らず、誤った修行をしている日蓮門下に対して、その誤りを正さなければというお役目を感じられたんだ。

そこで門祖聖人は永享元年（一四二九）四十五歳の時、「四帖抄」という御指南書を書かれたんだ。この四帖抄には「仏さまもお祖師さまも、法華経本門八品上行所伝の御題目でなければダメ」と仰っていますよ。何故みなさんは守らないのですか？」と書かれてあるんだ。

この「四帖抄」を門祖聖人は、全国の日蓮門下の僧侶たちを送ったんだ。だけどこの門祖聖人の四帖抄に対して、反論や意見を申し出る者は一人もなかったんだ。これは正論だから当然だね。でも日蓮門下の僧侶たちは、なかなか素直にお祖師さまのみ

駿州岡宮（静岡県沼津市）の光長寺の本果院日朝師が門祖聖人を訪ねて来られた。お二人はいろいろとお話をされるうち意気投合。本門八品のみ教えを東方面は日朝師、西方面は門祖日隆聖人と分担され、ご弘通ご奉公に励まれる「東朝西隆」のお話。教えを守り、誤った修行を直そうとはしなかったんだ。



### 本果院日朝師

しかし、門祖聖人の書かれた四帖抄を読んでも感動された一人の僧侶がいたんだ。その人は本果院日朝師という方。この方は駿州岡宮（静岡県沼津市）の光長寺のご住職なんだ。

光長寺は、お祖師さまがいらした頃に建てられたお寺で、はじめお祖師さまのみ教えを正しく守り弘めていたんだけど、次第に誤った修行をするようになっていったんだ。日朝師は、以前からお祖師さまの正し

いみ教えに戻さなければと頭を痛めていたんだ。ちょうどそんな時、門祖聖人から四帖抄が送られてきたんだ。四帖抄を読まれた日朝師は「これだ！」と大変喜ばれ、すぐに京都・本能寺の門祖聖人に会いに行かれたんだ。

### 東朝西隆

永享七年（一四三五）、京都・本能寺の門前で「本門八品上行所伝の南無妙法蓮華経」と大きな声で御題目をお唱えする声が聞こえるんだ。

門祖聖人が「どなたですか？」と訊ねると、「私は東国岡宮の光長寺の住職の本果院日朝と申します。あなたの書かれた四帖抄に随喜しました。どうぞお祖師さまのみ教えである本門八品について、お教え願いたいのですが」というんだよ。

この申し出を門祖聖人は快く引き受けられ、いろいろと教えをさずけたり、意見を交わされたりと、お二人は意気投合されるんだ。そして、「あなたは関東方面を私は関西方面を、それぞれ担当してお祖師さまの正しいみ教えを弘めて行きましょう」と約束されたんだ。東に日朝師、西に門祖日隆聖人ということから、これを「東朝西隆」というんだよ。



光長寺の本堂